

令和6年度 九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム

20th
ANNIVERSARY
KYUSHU NATIONAL MUSEUM

海を渡った人馬と国の行く末

つくしのきみ くずこ かすやのみやけ
～ 筑紫君葛子献上の糟屋屯倉と国家形成 ～



2025年 3月29日(土)

13時～16時45分(12時30分受付)

九州国立博物館
1階ミュージアムホール

九州国立博物館・福岡県

阿恵官衙遺跡 政庁(粕屋町立歴史資料館提供)

新発見の遺跡から、古代国家の地域支配を探る

古代都市・大宰府の中樞は大宰府政庁を中心とする官衙（役所）と古代山城ですが、その成立を考えるうえで重要な発見が大宰府を取り巻く周辺地域で相次いでいます。本シンポジウムでは、近年の発掘調査成果として大きなニュースとなり、発掘調査後はその意義の重要性から国の指定史跡になった粕屋町阿恵官衙遺跡あえと行橋市福原長者原官衙遺跡ふくばる ちょうじゃばるの二つの遺跡を重点的に取り上げます。

阿恵官衙遺跡は博多湾東部の港湾拠点に位置する糟屋評〔郡〕の役所跡で、筑紫君磐井の乱後に筑紫君葛子がヤマト王権に献上した糟屋屯倉との関連が注目されています。遺跡の周辺では飛鳥時代の港や馬埋葬土坑が発見されており、『日本書紀』に記された軍馬の輸送が想起されます。

福原長者原官衙遺跡はヤマトと筑紫を結ぶ瀬戸内海航路の要衝・京都湾に位置しています。その規模は大宰府政庁に迫るものであり、藤原宮をモデルにして造営されたのではないかと考えられています。

博多と京都湾は白村江の戦いに帰結する軍事動員の拠点として機能していました。このような歴史的背景をも踏まえ、阿恵官衙遺跡と福原長者原官衙遺跡を起点に、朝鮮半島諸国をめぐる国際環境や西海道統治に係る国家運営等も交えながら大宰府成立前夜の社会を明らかにしていくのが、本シンポジウムのねらいです。

◎プログラム 令和7(2025)年3月29日(土)

12:30 ~ 13:00 開場・受付

13:00～13:10 開会行事

13:10～14:00 **発表1**「大宰府成立前夜の古代国家の地域支配」

林部 均 (国立歴史民俗博物館)

14:00 ~ 14:10 休憩

14:10～15:00 **発表2「糟屋評衙阿恵官衙遺跡と糟屋屯倉」**

西垣彰博 (粕屋町教育委員会)

15:00 ~ 15:10 休憩

15:10～16:00 **発表3**「ミヤケをつなぐ道」

小嶋 篤 (九州歴史資料館)

16:00 ~ 16:10 休憩

16:10～16:40 パネルディスカッション

16:40～16:45 閉会行事

定員：280名(参加費無料)
事前申し込み不要(当日先着順)



一太宰府天滿宮橫一

〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2

（午前9時～午後8時/年中無休）

www.kyuhaku.jp



九州国立博物館